

# 福 祉

## 1 科目構成

改 訂		現 行	
科 目 名	想定単位数	科 目 名	標準単位数
社会福祉基礎	2～6	社会福祉基礎	2～6
介護福祉基礎	2～6	社会福祉制度	2～4
コミュニケーション技術	2～4	基礎介護	2～6
生活支援技術	4～12	社会福祉援助技術	2～6
介護過程	2～6	社会福祉演習	2～6
介護総合演習	2～6	社会福祉実習	2～10
介護実習	4～16	福祉情報処理	2～4
こころとからだの理解	2～12		
福祉情報活用	2～4		

## 2 改訂の基本方針

急速に進展する高齢化や社会福祉に対する国民意識の変化に対応し、多様で質の高い福祉サービスを提供できる人材の育成や介護福祉士の資格等も考慮し、福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術を確実に習得させるため、現行の7科目を9科目に改めるなどの改善を図った。

なお、福祉科については、新しい介護福祉士養成制度が平成21年4月から実施されることを踏まえ、各学校の判断により平成21年度以降に入学する生徒から、その全部又は一部を新しい学習指導要領によることができるようにしている。

## 3 改訂の内容

### (1) 目標

福祉科の目標は、次のとおり示されている。

社会福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術を総合的、体験的に習得させ、社会福祉の理念と意義を理解させるとともに、社会福祉に関する諸課題を主体的に解決し、社会福祉の増進に寄与する創造的な能力と実践的な態度を育てる。

高等学校の社会福祉教育においては、基礎的・基本的な内容を重視し、実際の・体験的な学習を通して、活用できる知識と技術を総合的に身に付けさせることが大切である。また、知識と技術の習得にとどまらず、社会福祉関連の職業に従事する者として求められる福祉観や倫理観を高めることが必要である。

### (2) 各科目

#### <社会福祉基礎>

##### ア 目標

社会福祉に関する基礎的な知識を習得させ、現代社会における社会福祉の意義や役割を理解させるとともに、人間としての尊厳の認識を深め、社会福祉の向上を図る能力と態度を育てる。

#### イ 内容

- (ア) 社会福祉の理念と意義 (イ) 人間関係とコミュニケーション
- (ウ) 社会福祉思想の流れと福祉社会への展望 (エ) 生活を支える社会保障制度

#### ウ 内容の取扱い

- (ア) 内容の(イ)の指導に当たっては、コミュニケーションの基礎などを取り扱い、対人援助に必要な社会福祉援助活動の概要について理解させる。
- (イ) 内容の(ウ)の指導に当たっては、欧米や日本において社会福祉思想が発展してきた過程について理解させる。また、地域福祉の考え方や進展、アジア諸国の社会福祉の状況などを取り扱い、国際的な視野で社会福祉をとらえられるよう留意する。
- (ウ) 内容の(エ)の指導に当たっては、福祉の支援が行われている様々な分野を取り扱い、日常生活と社会保障制度を関連させてその現状と課題について考えさせるとともに、福祉の支援が行われる必要性について理解させる。

### <介護福祉基礎>

#### ア 目標

介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援など介護の意義と役割を理解させ、介護を適切に行う能力と態度を育てる。

#### イ 内容

- (ア) 介護の意義と役割 (イ) 介護福祉の担い手
- (ウ) 介護を必要とする人の理解と介護 (エ) 介護における安全確保と危機管理

#### ウ 内容の取扱い

内容の(イ)の指導に当たっては、介護従事者の役割や職業倫理などについて理解させ、介護従事者としての職業観の基盤を育成するよう留意する。

### <コミュニケーション技術>

#### ア 目標

コミュニケーションに関する基礎的な知識と技術を習得させ、介護福祉援助活動で活用する能力と態度を育てる。

#### イ 内容

- (ア) 介護におけるコミュニケーション
- (イ) サービス利用者や家族とのコミュニケーション
- (ウ) 介護におけるチームのコミュニケーション

#### ウ 内容の取扱い

- (ア) 内容の(ア)及び(イ)の指導に当たっては、介護における基本的なコミュニケーションの技法を習得させるとともに、サービス利用者の状態や状況に応じたコミュニケーションや家族への支援などの技法について理解させる。
- (イ) 内容の(ウ)の指導に当たっては、記録による情報の共有化など、チームケアのためのコミュニケーションの重要性について理解させる。

## <生活支援技術>

### ア 目標

自立を尊重した生活を支援するための介護の役割を理解させ、基礎的な介護の知識と技術を習得させるとともに、様々な介護場面において適切かつ安全に支援できる能力と態度を育てる。

### イ 内容

(ア) 生活支援の理解 (イ) 自立に向けた生活支援技術

(ウ) 終末期・緊急時の介護

### ウ 内容の取扱い

(ア) 内容の(ア)の指導に当たっては、「社会福祉基礎」「介護福祉基礎」との関連を図り、より生活支援の理解が深まるよう留意する。また、介護従事者としての介護観や倫理観を育成し、介護の専門職として自ら判断し適切かつ安全に介護できるようにする。

(イ) 内容の(イ)及び(ウ)の指導に当たっては、介護実践の根拠となる「こころとからだの理解」との関連を図り、具体的な介護場面を想定し、講義・演習・実習を一連の流れとして効果的に指導するようにする。

## <介護過程>

### ア 目標

人間としての尊厳の保持と自立生活支援の観点から介護過程の意義と役割を理解し、介護過程が展開できる能力と態度を育てる。

### イ 内容

(ア) 介護過程の意義と役割 (イ) 介護過程の展開

(ウ) 介護過程の実践的展開 (エ) 介護過程とチームアプローチ

### ウ 内容の取扱い

(ア) 内容の(ア)の指導に当たっては、計画的に行う介護過程が必要であることについて理解させるとともに、介護過程の一連の流れについて理解させる。

(イ) 内容の(イ)の指導に当たっては、介護過程の要素を具体的に理解させ、介護従事者に必要な介護の視点と能力を身に付けさせるよう留意する。

(ウ) 内容の(ウ)の指導に当たっては、内容の(イ)と関連付けて扱い、演習などを取り入れて具体的に理解させ、他の専門科目で学んだ知識や技術を統合して展開できるように留意する。

## <介護総合演習>

### ア 目標

介護演習や事例研究などの学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、課題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。

### イ 内容

(ア) 介護演習 (イ) 事例研究 (ウ) 調査、研究

### ウ 内容の取扱い

(ア) この科目の指導に当たっては、生徒の興味・関心、進路希望、地域の実態や学科

の特色等に応じて内容の(ア)から(ウ)までの中から、個人又はグループで適切な課題を設定させるようにする。なお、課題は内容の(ア)から(ウ)までの2項目以上にまたがる課題を設定することもできる。また、生徒の表現力の育成、地域との連携体制の充実に資することにもなることから、学習成果の発表機会を設けるようにすることが必要である。

- (イ) 内容の(ア)の指導に当たっては、介護実習の事前・事後指導として、主体的に実習に臨む態度を身に付けさせ、自己の課題を明確化するとともに、介護従事者としての意識付けを図るなど効果的な指導を行い、介護実習が適切に行われるよう留意する。

### <介護実習>

#### ア 目標

介護に関する体験的な学習を多様な介護の場において行い、知識と技術を統合させ、介護従事者としての役割を理解させるとともに、適切かつ安全な介護ができる実践的な能力と態度を育てる。

#### イ 内容

- (ア) 多様な介護の場における実習 (イ) 個別ケアのための継続した実習

#### ウ 内容の取扱い

(ア) この科目の指導に当たっては、介護実習がサービス利用者の生活空間で行われるため、実習指導者と連携を図りながら、意欲的に実習に取り組むことができるように配慮する。

(イ) 内容の(ア)の指導に当たっては、サービス利用者の理解を図るために、高齢者だけでなく障害者や障害児も含めて、居宅介護・施設介護など多様な介護実習が可能となるように配慮する。

(ウ) 内容の(イ)の指導に当たっては、サービス利用者ごとの一連の介護過程を実践できるように配慮する。

### <こころとからだの理解>

#### ア 目標

自立生活を支援するために必要なこころとからだの基礎的な知識を習得させ、介護実践に適切に活用できる能力を育てる。

#### イ 内容

- (ア) こころとからだの基礎的理解  
(イ) 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解  
(ウ) 発達と老化の理解 (エ) 認知症の理解 (オ) 障害の理解

#### ウ 内容の取扱い

(ア) この科目の指導に当たっては、介護実践に必要な知識という観点から、模型や各種メディア教材などを活用し、こころとからだについて理解させる。

(イ) 内容の(イ)の指導に当たっては、「生活支援技術」の内容との関連を図り、生活支援を行うときの根拠を身に付けさせるよう留意する。

### <福祉情報活用>



がら、実践での方法を学習できるようにすることが考えられる。

なお、「生活支援技術」を学習する場合には、「こころとからだの理解」を併行して履修できるようにすることが望ましい。

問3 「社会福祉基礎」の現行との相違点は何か。

	改訂<2～6単位>	現行<2～6単位>
目 標	社会福祉に関する基礎的な知識を習得させ、現代社会における社会福祉の意義や役割を理解させるとともに、 <b>人間としての尊厳の認識を深め</b> 、社会福祉の向上を図る能力と態度を育てる。	社会福祉に関する基礎的な知識を習得させ、現代社会における社会福祉の意義や役割を理解させるとともに、社会福祉の向上を図る能力と態度を育てる。
内 容	(1) 社会福祉の理念と意義 ア 生活と福祉 イ 社会福祉の理念 ウ <b>人間の尊厳と自立</b> (2) <b>人間関係とコミュニケーション</b> ア <b>人間関係の形成</b> イ <b>コミュニケーションの基礎</b> ウ <b>社会福祉援助活動の概要</b> (3) 社会福祉思想の流れと福祉社会への展望 ア <b>外国</b> における社会福祉 イ 日本における社会福祉 ウ 地域福祉の進展 (4) 生活を支える社会保障制度 ア 社会保障制度の意義と役割 イ 生活支援のための公的扶助 ウ 児童家庭福祉と社会福祉サービス エ 高齢者福祉と <b>介護保険制度</b> オ 障害者福祉と <b>障害者自立支援制度</b> カ <b>介護実践に関連する諸制度</b>	(1) 現代社会と社会福祉 ア 社会構造の変容と社会福祉 イ ライフサイクルと社会福祉 (2) 社会福祉の理念と意義 ア 自立生活支援と社会福祉 イ 社会福祉の理念 (3) 社会福祉の歴史 ア 欧米における社会福祉 イ 日本における社会福祉 (4) 社会福祉分野の現状と課題 ア 公的扶助 イ 児童家庭福祉 ウ 高齢者・障害者福祉 エ 地域福祉 (5) 社会福祉の担い手と福祉社会への展望
内容の 取扱い	ア 内容の(2)の指導に当たっては、対人援助に必要な社会福祉援助活動の概要について理解させる。 イ 内容の(3)の指導に当たっては、欧米や日本において社会福祉思想が発展してきた過程について理解させる。 ウ 内容の(4)の指導に当たっては、日常生活と社会保障制度を関連させてその現状と課題について考えさせるとともに、福祉の支援が行われる必要性について理解させる。	ア 内容の(1)から(3)までの指導に当たっては、日常生活に社会福祉が深くかかわっていることについて理解させ、社会福祉の全体をとらえさせる。 イ 内容の(5)の指導に当たっては、特に、人間の尊厳についての理解に重点を置くとともに、社会福祉に関する学習の基本的な心構えを身に付けさせるよう留意する。

今回の改訂では、現行の「社会福祉基礎」と「社会福祉制度」を整理統合し、社会福祉に関する基礎的な知識や社会福祉の意義などの内容を再構成するとともに、社会福祉の法制度などの基礎的な内容を取り入れるなどの改善を図っている。

なお、改訂の欄の太字の箇所は、現行の「社会福祉基礎」に新たに盛り込まれた内容である。